

「TEAM EXPO 2025」プログラム（公益社団法人2025年日本国際博覧会協会）への参画について

本学会の環境学習施設研究部会（代表：花嶋温子）は、2022年4月に、「TEAM EXPO 2025」プログラム（以下「TEAM EXPO 2025」とする。）の共創パートナーとして登録されました。全国の焼却工場やリサイクルプラザの環境学習施設（拠点）を「SDGs パビリオン」としてつなげ、全国規模で環境学習をより一層活性化することをめざします。

(※<https://team.expo2025.or.jp/ja/partner/169>)



図1：「TEAM EXPO 2025」プログラムの公式ホームページ

「TEAM EXPO 2025」とは、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するために多様な参加者が主体となって、未来社会を共に創り上げていく、大阪・関西万博の参加型プログラムです。大阪・関西万博開催である2025年、SDGs達成目標である2030年、またその先の未来に向けて成長し続けていくことを目指しています。

折しも2025年は、本研究部会の第2期5年目という節目にあたる年であり、本研究部会のミッションとして掲げている「全国の環境学習施設ネットワーク構築」の実現を、大阪・関西万博を契機として実現します。

「TEAM EXPO 2025」には、「共創パートナー」と「共創チャレンジ」という2つの参加方法があります。「共創チャレンジ」は、自らが主体となって行動を起こすチームの活動のことです。一方の「共創パートナー」は、各共創チャレンジの立上げや活動を支援する役割を担います。本研究部会は、「全国まるごとSDGsパビリオン」という活動で、共創パートナーとして登録されました。全国の焼却工場やリサイクルプラザや最終処分場の環境学習施設に、共通して実施できるような環境学習プログラムを提案したり、それを実施したりする共創チャレンジの立ち上げを本研究部会が支援します。そして、この「共創チャレンジ」とそれに参加される「共創メンバー」を、「SDGsパビリオン」として認定します。ご参加いただいた各施設は、環境学習プログラムを実施し、共創メンバーとなることによって、「TEAM EXPO 2025」のロゴマークを使える「SDGsパビリオン」となります。もちろん、独自のプログラムを共有して「共創チャレンジ」を立ち上げたいという施設を本研究部会が支援します。

図2に本研究部会が共創パートナー「全国の環境学習施設ネットワーク」として実施する活動の全体構想を示します。

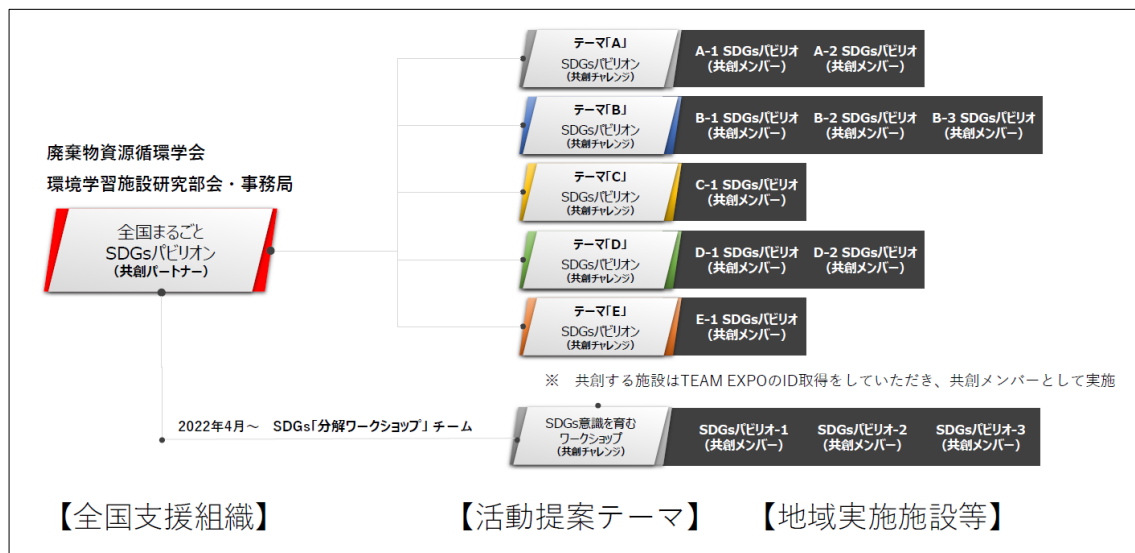


図2：共創パートナーと共創チャレンジの活動イメージ

テーマ A,B,C・・・となる環境プログラムの例は、例えば下記のようなものです。このうち、「SDGs 意識を育むワークショップの実践と創成」については、すでに「共創チャレンジ」として登録済みです。下記 URL からご覧いただけます。

●SDGs 意識を育むワークショップの実践と創成

<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/441>

不要になった家電や製品を分解し、製品の仕組みや内容を自分の手と眼で確かめる「分解ワークショップ」です。

●リユースマーケット共創チャレンジ (案)

地域に特化したファミリーなフリーマーケットやおもちゃ・ベビー用品のリユースシステム (例:「かえっこバザール」) の開催ノウハウを提供します。すでに多くの施設が実施していますが、これらの施設のノウハウを共有し、リユース催事を軸とした施設ネットワークを構築します。

●環境まんが共創チャレンジ (案)

本研究部会の前代表で現在顧問の高月紘先生(ペンネーム High Moon)の膨大な環境マンガを活用した「環境マンガ展覧会」を全国の施設で展開することをめざします。

●ごみゼロ共創チャレンジ(案)

地域のごみが自然界への流出を防ぐことを目的に、ごみ拾いアプリ「ピリカ」を利用したプログラムを提供し、地域のみなさんひとりひとりの手で実現する「ごみゼロ」へ向けた取り組みをサポートします。

●環境ゲーム共創チャレンジ (案)

環境系カードゲームやボードゲームを使ったワークショップを提供し、地域のみなさんと環境意識を高めていただく取り組みです。参加希望の施設の地域性に合わせたゲームを提案したり、参加者と一緒にルールをカスタマイズしたりと地域ならではのゲームに育てることができます。

全国のごみ焼却工場やリサイクルプラザや最終処分場に併設された環境学習施設の運営ご担当のみなさまをはじめ、環境学習についてご興味のある企業や団体・組織のみなさま、この「TEAM EXPO 2025」を活用して、様々な学習プログラムやワークショップなどにチャレンジしてはいかがでしょうか。そして、全国の環境学習施設のみなさまと交流し、各地域にふさわしい、新たなプログラムを創出いたしましょう！

ご意見や質問は、環境学習施設研究会の事務局・鈴木榮一（heikuro1@gmail.com）まで、ご連絡をお願いいたします。

（文責　：　環境学習施設研究会・事務局　鈴木榮一）